

稲・大豆作情報 (NO. 3)

1. 水稲作況情報田の生育概況(7月16日現在)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概況
			草 丈 cm	茎 数 本/m ²	主稈 出葉数	葉色 SPAD	
夢しずく 佐賀市本庄町	6/17 18.0株/m ²	本 年 平 年 平年比	51.7 47.1 (110)	275 283 (97)	9.5 9.1 (+0.4)	40.6 40.5 (+0.1)	7/12の梅雨明け以降 好天が続き、気温も平 年より高く推移した。
さがびより 小城市芦刈町	6/21 18.5株/m ²	本 年 平 年 平年比	47.7 42.2 (113)	345 308 (112)	9.2 9.1 (+0.1)	40.6 41.0 (-0.4)	全品種、草丈は平年よ り高く、茎数、葉齢は 「さがびより」「ヒヨク モチ」で平年よりやや 多く推移している。
ヒヨクモチ 小城市牛津町	6/29 19.3株/m ²	本 年 平 年 平年比	33.3 29.2 (114)	218 198 (110)	8.4 8.0 (+0.4)	40.5 41.1 (-0.6)	葉色は「さがびより」「 ヒヨクモチ」でやや淡 い。

注1) 各品種 前作：麦

注2) 施肥及び病害虫防除は地区基準に準ずる。

〈参考〉佐賀県農業試験研究センター 米づくり情報(抜粋)(7月16日調査)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概況
			草 丈 cm	茎 数 本/m ²	主稈 出葉数	葉色 SPAD	
夢しずく	6/18 19.6株/m ²	本 年 平 年 平年比	46.4 43.0 (108)	258 312 (83)	8.9 8.7 (+0.2)	39.7 38.5 (+1.2)	【草丈】「夢しずく」「ヒノ ヒカリ」「ヒヨクモチ」は平 年より高い。
ヒノヒカリ	6/18 22.2株/m ²	本 年 平 年 平年比	44.3 38.3 (116)	458 404 (113)	9.7 9.0 (+0.7)	42.8 40.8 (+2.0)	【茎数】「夢しずく」は少 ないが、「ヒノヒカリ」「ヒ ヨクモチ」は多い。「さが びより」はやや多い。
さがびより	6/21 16.7株/m ²	本 年 平 年 平年比	39.7 38.4 (103)	349 333 (105)	8.6 9.0 (-0.4)	40.7 41.4 (-0.7)	【葉齢】「ヒノヒカリ」は 進んでいる。「さがびより 」はやや遅れている。
ヒヨクモチ	6/21 22.2株/m ²	本 年 平 年 平年比	36.9 34.7 (106)	532 484 (110)	9.5 9.3 (+0.2)	42.5 42.2 (+0.3)	【葉色】「夢しずく」「ヒノ ヒカリ」はやや濃い、「 さがびより」は平年よりや や淡い。

2. 水稲管理

圃場管理の違いにより、生育差が出てきている。引き続き、適正管理を徹底し、できる限り生育回復・有効茎確保に努める。

○水管理 ～ 浅水・間断 適正な水管理を ～

- ・引き続き、浅水管理・間断灌水を徹底し、分けつ促進を第一に管理する。
- ・ガス湧きが続いている圃場は、落水→浅水を継続し、適正なガス抜きを行うとともにガスの有無を定期的に確認し、土壤の健全化も図る。



ガス湧きによる生育抑制

- ・分けつ確保が遅れているが、有効茎が確保できている圃場では、中干しを開始する(目安は右表を参考)。中干しは、軽い亀裂が入り足跡がわずかにつく程度で、1週間程度実施する。

品種	目標 穂数 本/m ²	有効茎数 (中干し時期)	
		50 株/坪 (15.2 本/m ²)	60 株/坪 (18.2 本/m ²)
夢しずく	360	24 本/株	20 本/株
さがびより	370	25 本/株	21 本/株
ヒヨクモチ	440	29 本/株	24 本/株

○除草剤 ～取りこぼし雑草に注意～

- ・雑草の生育(葉齢)に注意し、中後期除草剤による早めの対策を講じる。

対象	除草剤名	使用時期	備考
ヒエ類	クリンチャー 1 扣粒剤	移植後 7 日～ル ¹ I 4L 但し、収穫 30 日前まで	湛水散布 (3～4 日は湛水)
	クリンチャー EW	移植後 20 日～ル ¹ I 6L 但し、収穫 30 日前まで	落水散布。展着剤加用。
	ヒエクリーン 1 扣粒剤	移植後 15 日～ル ¹ I 4L 但し、収穫 45 日前まで	湛水散布 (3～4 日は湛水)
広葉雑草	バサグラン粒剤	移植後 15 日～55 日 但し収穫 60 日前まで	落水～ごく浅く湛水散布。 最低 3 日間入落水しない。
	バサグラン液剤	移植後 15 日～55 日 但し収穫 50 日前まで	高温条件下では、薬害が生じやすいので夕方散布。
ヒエ類および広葉雑草	クリンチャーバス ME 液剤	移植後 15 日～ル ¹ I 5L 但し収穫 50 日前まで	落水～ごく浅く湛水散布。 最低 3 日間入落水しない。 高温条件下では、薬害が生じやすいので夕方散布。(展着剤無加用)
	ハイカット 1 扣粒剤	移植後 15 日～ル ¹ I 3.5L 但し、収穫 60 日前まで	湛水散布 (3～4 日は湛水)
	フォローアップ 1 扣粒剤	移植後 15 日～ル ¹ I 5L (稲 4 葉期以降) 但し、収穫 60 日前まで	湛水散布 (3～5 日は湛水)
	ワイドアタック SC	移植後 20 日～ル ¹ I 6L 但し、収穫 30 日前まで	落水～ごく浅く湛水散布。(展着剤無加用)

○病害虫情報(発生および防除)

- 今年のトビイロウンカは、現在のところ 5月11日、7月4日、7月9日の3飛来が確認されており、平年並みの飛来量となっている。
- 7月16日現在、平坦部圃場でトビイロウンカが確認された情報は入っていないが、移植時期や品種によっては飛来・定着している可能性もあるため、今後もそれぞれで発生状況を注視してください。
- 農業技術防除センターより 7月14日に発信された発生予測図は右図のとおり。なおこの発生予測図は随時更新されるため、以下に示すホームページで最新情報を定期的に確認してください。

農業技術防除センターHP 参照：病害虫情報

<https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

- 暫定防除時期 (7/14 現在)

第一世代幼虫期 7/25～31



トビイロウンカの発生予測図 (7/14 発表)

3. 大豆管理 ～圃場条件が整い次第播種を～

気象および土壌水分に留意しながら、播種作業を行きましょう。

○圃場準備 ～ 耕起は水分の低い時に、大雨・長雨予報の時は無理しない！～

- 荒起は、圃場の土壌水分を考慮し、播種前日～当日に行う。
- 天候が変わりやすい場合には、無理に荒起こしはせず、1工程で浅く耕起して播種する。
- 土壌水分が低い上、晴天が続く場合は、昼間の耕起は避ける！土壌水分の蒸発促進に繋がり、出芽に影響する。

○播種

- 種子消毒：紫斑病や腐敗防止および発芽率の向上のため、必ず実施する。
- 播種量

時期	栽植本数 ㎡あたり	栽植様式 条間 cm×株間 cm×1 株本数	播種量 (kg/10a)	施肥
7月16～20日	13本	75 × 20 × 2	4.0	-
7月21～25日	18本 20本	75 × 15 × 2 3条播き 20 × 2	5.3 6.0	BB480 を 40kg/10a (生育量確保のため行う)

・播種深度

土壤水分が高い場合や播種後2～3日以内に降雨が予想される時→2cm程度の浅め 鎮圧しない
播種後に晴天が続く場合は、4～5cm前後の深めにして鎮圧をおこなう。

💡 土壤水分を考慮した播種を！

既に土壤が乾燥して場合は、降雨後や入水により一定の土壤水分とした後に播種すると苗立ちが安定する。圃場の状態、天気予報を考慮し、播種作業を行う。

💡 順調な出芽となるよう土壤水分の確保ができる作業体系も検討を！

播種後、晴天が続く予報の場合、夜間の播種 → 早朝の鎮圧 などできる限り土壤水分の蒸散を抑制し、出芽までの土壤水分の確保を行う。

・除草剤

畦畔及び本田への散布で、周辺水稻ヘドリフト・薬害事例が散見されている。
散布作業は、周辺の作物への影響を十分に考慮して行う。

除草剤の散布は、風が弱い場合多い早朝が望ましい。ただ早朝でも風がある日は散布を避ける。

播種前)「ラウンドアップ」「プリグロックス」など茎葉処理剤の散布は、泡ノズルへの変更や風の強い日は避けるなど周辺作物への影響を考慮して行う。
場合によっては作物の枯死まで至るため、風の強い日の散布は厳禁！ 必ず避けて！

播種直後) 土壤処理剤を散布し、雑草防除を行う。

特に近年問題となっているホオズキの発生が多い圃場では、「ラクサー乳剤」が効果的である。
ただし、隣接圃場の水稻ヘドリフト防止のため風速と風向き等に注意し、風が強い日には散布しない。必ず避ける。

※アサガオについては、多発すると大豆の作付け自体が困難になるため、見つけ次第手で抜き取る。

令和3年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：佐賀）

佐城農業改良普及センター

